

国語科学習指導案

授業者：1年1組 谷中 啓子
2組 神原 さくら
3組 田口 咲

- 1 学年・組 1年1組（32名） 1年2組（33名） 1年3組（34名）
2 単元名 くじらぐもシアターにしようたいしよう！「くじらぐも」
3 単元について

○ 本単元では、学習指導要領「C読むこと」(ウ)「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」をねらいとしている。そのために、登場人物になりきって想像を広げ、劇やペープサートで表現する言語活動を設定した。「時」「場所」「登場人物の行動」など場面の把握をし、挿絵や叙述を基に動作化させ、そのあと、想像したことを台詞にして、劇やペープサートを動かすことで、場面の様子について想像を広げながら読むことができると考えられる。

教材文「くじらぐも」は、体育の時間に校庭で体操をしていた1年生と空に現れたくじらぐもとの交流を描いた物語である。体育の時間に起きた出来事、雲など、子供達が身近に感じることができる物語の設定となっている。また、大きなくじらぐもに飛び乗って空の旅をするという夢のつまった内容となっている。想像の世界と現実とが入り混じっており、物語の1年2組の子供達と自分達とを重ね合わせながら、楽しんで読み進めていける作品である。

また、リズムカルな会話や繰り返しの表現が多く用いられているので、くじらぐもと1年2組の子供達の役割に分かれて動作化して読むことで、場面の様子を豊かに想像することができる作品である。

○ 児童は、1学期に「おむすびころりん」では挿し絵をもとにおじいさんの行動を動作化し、想像を広げて楽しみながら作品を読んだ。また、「おおきなかぶ」では、動作化を通して、場面の様子や登場人物の行動を読み取る活動を経験している。いずれの作品においても、登場人物の言葉を吹き出しに書くことにより、その時の気持ちをおさえ、読みを深める学習を行ってきた。

今回、「ふしぎふしぎ」(教育出版こくご H12)でレディネステストを行った。児童の実態は以下の通りである。

内 容	正答率 (%)	誤答率 (%)	無答率 (%)
① 叙述から登場人物の気持ちを読み取ることができている。	88	9	3
② 叙述から誰が何を言っているか読み取っている。	62	27	11

誤答分析① 正答：「おどろいたなあ。」

- ・ 登場人物の行動や会話を基に気持ちを想像することができない。(例：しんぱいなあ。つまらないなあ。)

誤答分析② 正答：「かわりばんこにおもちつきをしましょう。」

- ・ 登場人物の行動と会話を結び付けて読むことができていない。(例：ぺったんぺったんにしましょう。いっしょにしましょう。)登場人物が何を言ったかを読み取る問題については、会話文にふれていない答えや無答もあり、読解力の個人差が大きい。

児童は、「おむすびころりん」ではおじいさんの行動を動作化してお話の世界を楽しんだ。「おおきなかぶ」では登場人物の行動から想像を広げ、会話を考えて劇をつくった。その際にはペア学習，グループ学習を取り入れて，自分の意見を発表し，いろいろ出た意見を一つにまとめる経験を積んできた。児童の実態は次の通りである。

① 劇をして表現するのが好きである。	82%
② 叙述から体の動きやセリフを考えている。	33%
③ ペアで自分の考えを伝えあうことができている。	33%
④ 自分の考えを全体の前で話すことができる。	39%

吹き出しに台詞を書いたり，劇をしたりする学習が好きな児童が多い。「おおきなかぶ」のグループ学習では，自分の意見を発表できる児童が率先して動き，劇を作り上げていく姿も見られた。しかし，ペアでの学び合いの際に，自分の考えを相手に伝えるのが苦手な児童もいる。その理由としては，「自分の考えに自信がない。」，「はずかしい。」等があげられた。自分の考えをまずは全員にもしっかりもたせ，ペア学習，グループ学習へ発展させる授業の活動を仕組まなければ児童一人一人には力がつかないと考える。

児童実態からみる課題

【課題となる力】

- 叙述から「登場人物」，「行動」を読み取り，お話を想像する力。
- 自分の考えをもち，それを友達に伝える力。

【指導上の課題】

- 登場人物，行動をおさえた後，叙述を根拠に想像させる指導が不十分だった。
- 自分の考えをもたせる手立てをとった上で，ペア学習・グループ学習にもっていくなど，自分の考えを伝える場をつくる指導が不十分だった。

- 指導にあたっては，まず教師が指導事項やつけたい力を確認し，押さえない叙述や用語を整理し，教材分析シートを作成し担任間の教材に対する共通理解を図る。次に，場面の様子や登場人物の行動を豊かに想像しながら読むために，物語を演じて6年生に観てもらい「くじらぐもシアターにしようたいしよう！」を単元のゴールに設定する。

この課題解決に向けて，0次では，今までに出会った雲について話し合い，雲に興味を抱かせる。そして，より一層，「くじらぐも」の世界に浸れるように教室に雲の写真や景色を掲示して，お話の世界にしていく。また，ゴールをイメージさせる為に，教師が簡単な物語の劇とペープサートをして見せ，6つの技（声の大きさ・速さ・表情・距離・動き・台詞）を見つけさせる。第一次では，教材文を読んで，つけたい力を確認し，単元のゴールを決め学習計画を一緒に立てる。第二次では，子供達がいる場所をもとに，「地上・空・地上」と全文を大きく3つに分けさせる。台本も大きく3つに分け，本文と挿絵に吹き出しを組み合わせた形式のものを活用し，想像をふくらませやすくする。想像したことを自分の言葉で表せるようにするために，「書き込み→劇団でまとめる→練習する」という一連の学習の流れを繰り返すことにより，叙述に沿った読みができるようにする。また，情景を表わす言葉に着目させてイメージを広

げたり動作化させたりすることで、登場人物に同化し物語の世界を楽しむことができるようにする。特に雲の上の場面では、一年生の子供を雲の上の想像の世界で思いっきり遊ばせ、魅力的な挿絵や教室環境を生かして、子供達のそれぞれの発想でつぶやきや動作を取り入れて表現させる。自分の経験や挿絵だけで想像することが多い一年生なので、読解の技を使って読み深めることができるようにしていく。まず、本文を読んで子供達に「くり返し」を見つけさせる。このくり返しは、同じ言葉や文のくり返しであることを押さえ、次に、くじらと子供達の会話のくり返しであることを捉えさせることにより、くり返される言葉や文を強調する働きをすることを捉えさせる。さらに、「も」のくり返しも扱う。「も」のくり返しは、くじらが子供達のまねをしていることの強調である。これは「くじらが学校はすきだ。」ということの強調であることを捉えさせる。「も」のくり返しの役目を押さえ、それを内容の読みに生かしていきたい。子供達を読み取った登場人物の行動や、想像した動作や会話などは台本に書き加え、自分達で劇をつくりあげていかせたい。劇をつくっていく際には、劇かペーパーサートを選ばせ劇団を結成し、主体的に活動できるようにする。児童が、主体的に活動できるようにするために、教師は個人表を作成したり、ビデオ撮影したりするなどして、劇団全体を評価したり個を評価したり出来るまでの過程を具体的に評価することができるようにする。第三次では、6年生を教室に招待し、感想を言ってもらうことで、達成感を味わわせたい。また、読解をする時に使った技「くり返しを見つける」や表現で身につけた力を振り返り、ついた力をいつでも振り返られるように紙に書いて、ファイルに綴じていかせることにより、次時の読みに生かせるようにさせたい。

協働的に学ぶための授業づくりの工夫として、授業の終わりに劇団で次時の目標を持たせることで、家庭学習の音読の際に自分なりの考えをもてるようにする。また、毎時間、「めあて」に対する「自分の花丸」を決めさせ、自分の目標をもって授業に臨めるようにさせる。「自分の花丸」の「ふりかえり」をさせることで、1時間の授業で自分がどこまで出来たのか、友達とどのように関わりがもてたのか等振り返り、自分の学びにさせる。自分の考えをもたせるために、一人読みの時間をとって台本に書き込みをさせる。その時、児童全体で6つの技のマークを決めるなど共通理解を図り、それを使って学習できるようにする。一人読みの活動が、グループ活動に生かせるようにする。6年生をくじらぐもシアターに招待するために、4つの劇団が協力して成功させることを意識づけ、お互いの台本や劇やペーパーサートの練習を見せ合い、感想を伝え合ったり、相談にのったりすることで、台本を見直し、場面の様子がより伝わるような活動にさせていきたい。

指導改善ポイント

- 子供達や、くじらぐもの行動を基にして、場面の様子を想像させる。
- 自分の考えをもたせ、目的に応じてペア・グループ学習を取り入れる。

【指導の工夫】

- 場面の様子を想像させるために、叙述と動きを対応させて考えさせたり、挿絵や情景を表す写真を見せたりする。
- 自分の考えをもたせるために、読解、台本への書き込み・吹き出し、劇化という一連の学習の流れを設定する。

【城北中学校区共通の授業改善の視点】

- ・J（じっくり考える）… 叙述をもとに、劇に使う6つの技から表現方法をじっくり考えさせる。
- ・H（はっきり表現する）… グループの中で、自分の考えをはっきり伝えさせる。
- ・K（繰り返し粘り強く挑戦する）… グループで台本を作成し、友達のアドバイスを基に繰り返し練習させる。

4 単元の目標・つきたい力

単元の目標

- 想像を広げながら、物語を楽しんで読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 登場人物の行動や会話から、場面の様子について想像を広げながら読むことができる。(読むこと ウ)
- 会話文におけるかぎ(「 」)の使い方を理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ))

つきたい力

- ◎ 登場人物の行動や会話を中心に、くじらぐもと子供達の様子について想像を広げながら読む力。
- 話の内容が分かるように劇やペープサートで伝える力。
- ④ ・くじらぐもや子供達の様子を想像して読む力。
・6つの技を使って、工夫して表現する力。

第2学年へのつながり

学習指導要領

[C 読むこと]

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

5 単元の観点別評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「登場人物になりきって想像を広げ、劇やペープサートで表現する言語活動」を通した指導 〔具体的な言語活動：くじらぐもシアターにしようたいしよう！〕		
○ 想像を広げながら、 物語を楽しんで読もう としている。	◎ 登場人物の行動や会話を 中心に、くじらぐもと子供達 の様子について想像を広げ ながら読んでいる。(ウ)	○ 会話文におけるかぎ (「 」)の使い方を理解し ている。(イ(オ))

6 指導と評価の計画

(全13時間 本時☆印)

次	学習内容(時数) ○ 発問	評価			
		関	読	言	評価規準(評価方法)
一	・「くじらぐも」を読んで、感想を交流する。(1/13)	◎			・想像を広げながら、楽しくお話を読もうとしている。 (ノート・行動観察)
	・つきたい力を確かめて、単元のゴールを決め学習計画を立てる。(2/13)	◎			・最終ゴールに向けて、見通しをもっている。 (ノート)
二	・誰の会話か、行動かを確認する。(3/13) ○人物ごとに色を変えて、会話文や行動を表す言葉に色をつけましょう。		◎	○	・台詞や行動が誰のものかをおさえている。(人・・・ピンク) (くじら・・・水色) ・誰が何をしたのか捉えている。 (台本)
	・地上①での場面の様子が伝わるように、6つの技から選んで劇やペープサートをつくる。(4・5/13) ○「おうい。」や「ここへおいでよう。」のところは、どのように読みますか。		◎		・くじらと子供達の行動や会話を想像し、それが伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本・個人表・ビデオ)
☆ 1-3	・地上②での場面の様子が伝わるように、6つの技から選んで劇やペープサーをつくる。(6/13) ○「天までとどけ、一、二、三。」の部分はどのように言いますか。 ○くじらぐもはどのように声をかけているでしょう。		◎		・全員が力を合わせて、雲に飛び乗ろうとジャンプしている情景を想像し、それが伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本・個人表)
☆ 1-2	・空での場面の様子が伝わるように、6つの技から選んで劇やペープサートをつくる。(7/13) ○くじらに乗ったみんなには、何が見えるのでしょうか。どんなお話をしているか考えましょう。 ○くじらぐもは、子供達にどんなことを話しかけているでしょう。		◎		・海、村、町などの情景や、空を元気いっぱい進むくじらぐもや子供達の会話が伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本・個人表)
	・空の旅を終えて、別れる場面の様子が伝わるよう6つの技から選んで劇やペープサートをつくる。(8/13) ○別れるとき、お互いにどんな言葉を書き合っているでしょう。		◎		・くじらぐもと子供達が楽しい旅を終えて別れる様子を想像し、会話や行動が伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本・個人表・ビデオ)
三 ☆ 1-1	・場面の様子が伝わるように工夫する。(9/13) ○練習をして、グループ内でアドバイスをしあいましょう。		◎		・アドバイスを基に、劇やペープサートの工夫を考え、それを生かして表現している。 (台本・個人表・ビデオ)
	・場面の様子が伝わるように工夫する。(10/13) ○練習をして、別のグループでアドバイスをしあいましょう。		◎		・アドバイスを基に、劇やペープサートの工夫を考え、それを生かして表現している。 (台本・個人表)
	・場面の様子が伝わるように工夫して仕上げる。(11/13) ○リハーサルをして、最後のアドバイスをしあいましょう。		◎		・アドバイスを基に、劇やペープサートの工夫を考え、それを生かして表現している。 (台本・個人表・ビデオ)
	・6年生を招待して発表する。(12/13)	◎			・登場人物の会話や行動・情景が伝わるように、楽しんで表現している。 (劇・ペープサート・ビデオ)
	・学習を振り返ってまとめる。(13/13)		◎		・単元の学習を通してついた力を具体的に振り返っている。 (振り返りシート)

7 本時の学習（3組）


（1）本時の目標（第6時／全13時）

みんなが息を合わせて雲に飛び乗ろうとジャンプする様子が伝わるように、工夫して表現することができる。

（2）授業の視点

6つの技の中から選び、始めに一人で台本に書き込ませ、その後劇団でまとめて劇化させる。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示 (5)	<p>1 単元のゴールとつきたい力を確認し、前時までの振り返りをする。</p> <p>◎ 本文を音読し、登場人物の行動を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供達は、手をつないで丸い輪になってジャンプした。 ・ くじらが、「もっと高く。もっと高く。」と応援した。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の行動を確認することで本時の学習に対しての意欲を高めさせる。 	
	<p>ばめんのようすがつたわるように、6つのわざからえらんでげきをつくる。</p>		
	<p>3 自分の振り返りの視点を設定する。</p> <p>例  わけをはなす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6つの技を確認させる。 （「声の大きさ」「速さ」「表情」「距離」「動き」「台詞」） 	
課題の解決 (30)	<p>4 くじらぐもに乗る前の子供達の様子とくじらぐもの様子を劇化する。</p> <p>◎ 台本に自分達のマークで書きこみましょう。（一人→劇団）</p> <p>◎ 劇団で演じてみましょう。</p> <p>◎ 「天までとどけ、一、二、三。」の部分はどのように表現しますか。 〈子供達〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目、2回目、3回目と、だんだんと声を大きく、息を合わせて言う。足を曲げて、高くジャンプするようにする。 <p>◎ くじらぐもはどのように声をかけているでしょう。 〈くじらぐも〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だんだんと声を大きくする。手を大きく振って子供達を盛り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に立てた劇団の目標を提示し、具体的に活動できるようにする。 ・ 「やっとなんセンチ」「こんどは、五十センチ」などの表現に着目させることで、気持ちが盛り上がっていく様子をつかませる。 ・ なぜそのような工夫が必要なのか、叙述をもとに発表させる。 <p>☆ 繰り返しの言葉を見つけ、気持ちの高まりを身体表現を通して感じさせる。</p>	<p>【読む能力】 全員が力を合わせて、雲に飛び乗ろうとジャンプしている情景を想像し、それが伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本 個人表)</p>

	<p>5 劇団で、もう一度やってみる。</p> <p>◎ 4つのグループに分かれて、学んだことを生かして台本に書き込んだり演じたりしましょう。</p>	<p>J (じっくり考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し使われている言葉を取り出して、変化を考えさせる。 <p>H (はっきり表現する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えとその理由を友達に伝えさせる。 <p>・ 新しい工夫が見つかったら、台本に書き加えさせる。</p> <p>K (繰り返し挑戦する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇やペープサートで表現させる。 	
<p>まとめ・振り返り (10)</p>	<p>6 本時のまとめ・振り返りを書く。</p> <div data-bbox="252 1019 874 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしは、みんなで天までジャンプできるように、「天までとどけ、一、二、三。」のところを、だんだんと大きく言いました。</p> </div> <div data-bbox="252 1254 874 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぼくは、あしをまげて大きくジャンプしました。ともだちにわけをはなしたら、「いいね。」とってくれてうれしかったです。</p> </div> <p>7 次時の活動の目標を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が工夫したことをまとめさせる。 <p>・ 次時の場面の目標を劇団で決めさせる。</p>	

7 本時の学習（2組）


（1）本時の目標（第7時／全13時）

子供達とくじらぐもとの交流（かけあい）の様子が伝わるように、工夫して表現することができる。

（2）授業の視点

6つの技の中から選び、始めに一人で台本に書き込ませ、その後劇団でまとめて劇化させる。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示 (5)	1 単元のゴールとつきたい力を確認し、前時までの振り返りをする。 ◎ 本文を音読し、背景を確認しましょう。 ・ 青い青い空。 ・ 海・村・町。 2 本時のめあてを確認する。	・ くじらぐもの背景を確認することで、本時の学習に対しての意欲を高めさせる。	
	<p>ばめんのようすがつたわるように、6つのわざからえらんでげきをつくる。</p>		
課題の解決 (30)	3 自分の振り返りの視点を設定する。 例  わけをはなす。	・ 6つの技を確認させる。 （「声の大きさ」「速さ」「表情」「距離」「動き」「台詞」）	
	4 空での子供達とくじらの様子を劇化する。 ◎ 台本に自分達のマークで書きこみましょう。（一人→劇団） ◎ 子供達やくじらは、どんな動きをしたのでしょうか。 ・ 場所…空（くじらの上） ・ 登場人物の行動 …くじらは、すすんでいきました。 みんなは、うたをうたいました。 ◎ くじらに乗っている子供達の台詞を考えましょう。 〈子供達〉 ・ ぼくの町が見えるなあ。気持ちいいな。 ・ 海が見えるよ。気持ちいいね。 ・ 樹徳小学校も見えるね。 〈くじらぐも〉 ・ さあ、どこへでも連れて行くよ。みんなと一緒に旅ができて嬉しいな。	・ 前時に立てた劇団の目標を提示し、具体的に活動できるようにする。 ・ 表現を膨らませる為に、どんな気持ちでくじらに乗っているのか想像させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">J（じっくり考える） ・ 雲の上から見える情景を想像させ、劇化させる。</div> ☆ くじらの上から見える景色の絵を事前に描かせておき、イメージ化させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">H（はっきり表現する） ・ 自分の考えとその理由を友達に伝えさせる。</div>	【読む能力】 海、村、町などの情景や、空を元気いっぱい進むくじらぐもや子供達の会話が伝わるような劇やペープサートの表現方法を考えている。 (台本 個人表)

7 本時の学習（1組）


（1）本時の目標（第10時／全13時）

くじらぐもの話の様子が伝わるように、工夫して劇やペープサートをすることができる。

（2）授業の視点

グループで交流し、よさを学んだり、困ったことを解決したりする活動を通して、劇やペープサートの工夫を考えさせる。

（3）本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	【観点】 評価規準 (評価方法)
課題の提示 (5)	1 単元のゴールとつきたい力を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 劇団員として、4つの作品を完成させ、シアターを成功させることを確認させる。 	
	2 本時のめあてを確認する。 ばめんのようすがつたわるように、くふうする。		
	3 自分の振り返りの視点を設定する。  よくみて、アドバイスする。	<ul style="list-style-type: none"> 6つの技を確認させる。 （「声の大きさ」「速さ」「表情」「距離」「動き」「台詞」） 	
	4 前時に課題になった場面をグループで練習する。 ◎ 前の時間に、どんなところが困りましたか。 <ul style="list-style-type: none"> くじらの上での子供達の会話。 くじらの動き方。 くじらに乗る時の動き方。 ◎アドバイスしあいましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 会話になるように、すぐに話したほうがいいよ。もう少し、楽しそうな顔をしたらどうかな。 先生や、子供達のまねっこをしているよ。 いきなり風が吹いているから、素早く行動したらいいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に立てた劇団の目標を提示し、具体的に活動できるようにする。 イメージを高めるために、実際に演じながら、アドバイスをさせる。 	【読む能力】 アドバイスをもとに、劇やペープサートの工夫を考え、それを生かして表現している。 (台本 個人表)
	5 劇団で、もう一度やってみる。 <ul style="list-style-type: none"> 4つのグループに分かれて、練習する。 ◎ アドバイスをもとに、練習しましょう。	<p>J（じっくり考える）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の劇団の課題をもとに、みんなの課題として考えさせる。 <p>K（繰り返し挑戦する）</p> <ul style="list-style-type: none"> アドバイスを生かし劇やペープサートの練習をさせる。 	

<p>課題の解決 (30)</p>	<p>◎ 2グループずつで、見せ合ったりアドバイスをしあったりしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に出た課題が、できるようになっていたよ。 ・ もう少し、声の大きさや速さを変えたらどうかな。 ・ ペープサートの高さを変えたらどうかな。 	<p>☆ ペープサートと劇のグループで交流し、友達のを聞いて参考にさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>H(はっきり表現する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の劇団を見て、よかったところやアドバイスをはっきり伝えさせる。 </div>
<p>まとめ・振り返り (10)</p>	<p>6 本時のまとめ・振り返りを書く。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>わたしは、アドバイスをきいて、くじらの上でのかいわをふやしました。また、たのしくみえるように、えがおでせりふをいいました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしは、アドバイスできました。ペープサートで、くじらと人のたかさがいっしょだったので、くじらのたかさをかえたらいいとおもいました。</p> </div> <p>7 次時の活動の課題を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流したことを生かし、自分の考えをまとめさせる。 ・ アドバイスを基に、次時の解決したい課題を劇団で決めさせる。